

大学院ライフ大公開！ ～学び・研究・制度サポートのリアル～

大

学

院

ニ

ユ

ー

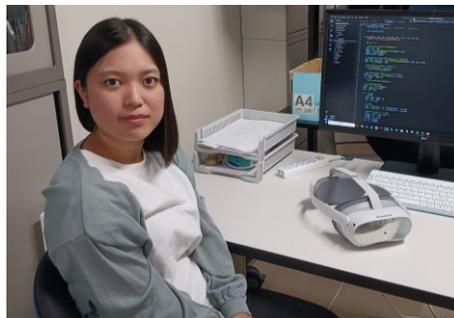
ス

No.48

院生一日密着レポート！ はやしま みき 早島 未来 さん

プロフィール

- 所属：工学研究科電子情報工学専攻
- 学年：修士2年
- 研究室：松木研究室
- 研究分野：交通心理学
- 趣味：カラオケ



○大学院へ進学した理由は？

きっかけは大学3年生のとき、「もっと成長したい」「まだ学び足りない」という向上心と同時に、「就職への不安」や「未熟なまま社会に出ることへの焦り」も感じていました。これら両方の思いが、大学院進学を決意させた原動力です。

○ゼミではどんなことをしている？

ゼミでは、毎週自身の研究進捗を教授だけでなく他の学生とも共有しています。さらに、2ヶ月に一度スライドを用いた研究進捗発表を行い、教授や学生からの質問・意見を受けます。自分では気づけなかった視点やアプローチを得られるため、研究の質を高めるうえで非常に貴重な機会だと感じています。

○研究テーマは何ですか？

私は修士研究で、機械学習を用いて人間の運転行動を再現した運転者モデルを開発しています。

この研究では、運転者がどのようにリスクを評価しながら運転しているかに着目し、事故発生確率と回避失敗率を統合した新しいリスク評価指標を開発中です。また、人間の視野特性を考



研究室でVRを用いて実験している様子

慮することで、現実的な運転行動の再現を目指します。現在、VR環境を用いた実験を実施し、提案モデルの有効性を検証しています。

早島さんの一日のスケジュール

9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
研究	昼食		研究		散歩			バイト		車校	帰宅	夕食・家事	就寝

本学大学院生の平均値

院生の研究に費やす時間
6.5時間/1日

院生の学内で過ごす時間
8時間/1日

大学院の特徴的な授業スタイル ～輪講～

大学院では、学部とは違う授業スタイルがあります。その一つが輪講です。輪講では、テキストの内容を教授が説明するのではなく、学生達がそれぞれのテーマにそって調査し、お互いに発表し合い、意見交換をします。能動的に情報収集することで、より深く内容を理解することができます。また意見交換でグループでの課題解決能力や論理的思考力を磨きます。写真では、発表者の内容について多面的な意見を出し合う様子が写されています。この形式は、研究者・技術者となるための基礎的なスキルを養うための大切な訓練です。



輪講の様子（電気応用工学特論）

大学院生あるあるコラム

【研究の説明、5分から1秒に...】

「なんの研究してるの？」

これは大学院生なら一度は家族や友人から聞かれる質問である。最初は「僕の研究は○○に関する△△の効果についてで……□□の場合はこうで、でも△△の場合はこうで……」と一生懸命説明していた。一方返ってくる反応は「あ、そうなんだね...（分かってない）」

結局、一生懸命説明しても理解されないことが分かり、数ヶ月後には「モノの研究をしています！（1秒）」

【研究室は第2の家】

がらんとしていた研究室。気づけばカップ麺、マグカップ、スリッパ、自分の棚まで揃い、「まあ、効率重視ってことで…」と電気ポットも導入。自宅さながらの快適空間が完成した。気づけば研究室にいる時間が長くなり、家はただ寝るだけの場所に。外出時に家の鍵を忘れてもまったく困らなくなった。

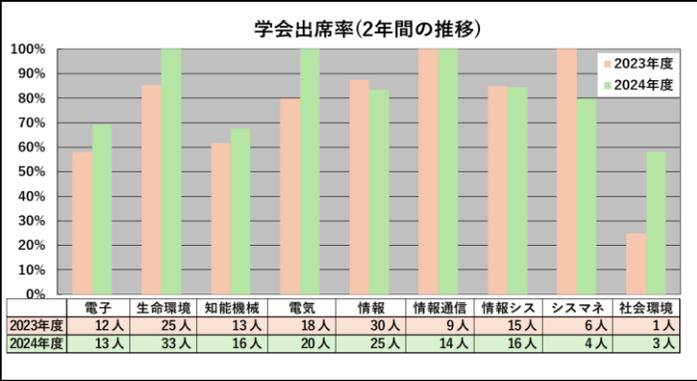
むしろ本当に困ったのは、研究室の鍵を忘れたときだった…。

大学院生を支える制度紹介

学会出席旅費補助制度

大学院に進学すると、自身の研究成果を学会で発表する機会があります。学会は、全国各地や海外で開催されますが、本学では学会発表時の旅費を補助する制度が整っており、学会に積極的に挑戦できます。（旅費年間上限：修士17万円，博士33万円）

本学院生はこの制度を利用して、**修士課程2年間で平均3.5回**の学会発表を行っています。2024年度は**約85%**の学生が1回以上学会に参加し、さらに**約45%**の学生が国際学会に参加しました。



国際会議の開催国 (2024年度)

日本、韓国、台湾、中国、シンガポール、ベトナム、オーストラリア、ハワイ、フィリピン、イタリアなど

学会には種類がある！

- ・国内学会，国際学会
- ・発表形式（口頭発表，ポスター発表，オンライン発表）
- ・査読の有無

旅費の補助が学会賞の受賞に影響？

学会において、特に優れた研究成果や功績をあげた際に賞が授与されます。2024年度は**43名**が表彰されました。学会に多く参加することで、自身の研究内容を深める機会が増え、質の高い研究成果につながります。そのため、旅費の補助は学会への参加を後押しし、結果的に学会賞の受賞に良い影響を与えている可能性があります。

【旅費制度を利用した院生の声】

- ・本制度があることで学会の参加回数が増えたと思う。
- ・現地で学会に参加できるので、他大学の院生や教授たちと交流が増えた。

私達が作成しました！

一言アドバイス

大学院進学に少しでも興味がある人は、FIT-Techプログラムを申し込んでみてはどうでしょうか。早期配属や大学院科目の先行履修などを通して、進学を考えるのも1つの方法だと思います。



大学院ニュース制作メンバー(M1)
(写真上段左より)

國永 優人 (情報)
木村 士遠 (情報通信)
中原 栄社 (電気)
大橋 秀幸 (電子情報)
岡本 優斗 (電子情報)

奨学金制度

2026年度入学生から採用人数が約**2.5倍**に増加※1します！

	A特待	B特待	C特待
支給額	50万円×2年間	国立大授業料標準額との差額※2×2年間	国立大授業料標準額との差額※2×1年間
対象者	FIT-Techプログラム生	学内推薦入試合格者	内部進学者
決定時期	学内推薦入試合格発表時	二次入試合格発表時	二次入試合格発表時
選考方法	FIT-Techプログラム活動状況、入試結果および学部時の学業成績	TOEICスコア450相当以上の中で、入試結果および、学部時の学業成績	TOEICスコア450相当以上の中で、入試結果および、学部時の学業成績
採用人数	学科1名（計9名）	20名以内	30名以内

※1 2026年度約60人 ※2 (工) 27.6万円、(社) 9.4万円を免除

FIT-Techプログラム

大学・大学院の6年一貫教育による技術者育成プログラム！

1ランク上の"憧れ"の就職先と職種・配属を手に入れる！

早期からの研究体験

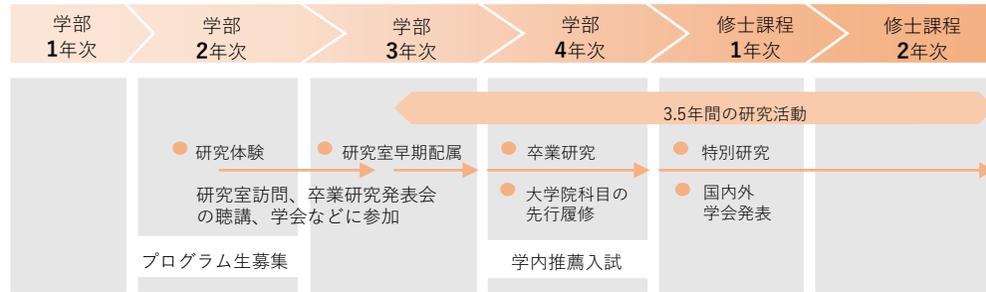
低次学年から研究へ先取り接触、研究への適正や意欲を育む！

研究室への早期配属

研究の早期着手、計3.5年間の研究活動を通じて、実践的な研究力を身につける！

分野横断の研究体制

教員による複数分野にまたがる研究指導！社会課題を解決する技術者の素養を養う！



【参加者の声】



電気工学科

早期の研究室配属に魅力を感じた！

早い段階から研究テーマを決めることができ、先行研究や論文を調べることができました！



情報通信工学科

学会聴講で研究室と大学院の雰囲気を感じた！

学会の聴講が可能で、学会の雰囲気や大学院生がどのように研究に取り組んでいるかを知ることができました！